

結論		本論 3			本論 2						本論 1					序論
17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
日々、和菓子に限らず受け継がれてきた。そこにどんな関わりがあるか、どんな人が支えているのかを考えることで私達も、日本の文化を受け継げる。		和菓子は、和の文化を再発見できるみりよくがある。			秋なら、風景や植物をかたどった和菓子が作られる。和菓子には、「野分」、「ふき寄せ」など、季節や風情を表現する言葉を使う。見た目の印象などが、季節を楽しむことをゆたかにする。和菓子は、さまざまな外国の食べ物のえいきょうを受けるとともに、年中行事や茶道などの日本の文化に育まれながら、その形を確立してきた。では、和菓子の文化は、どのような人に支えられ、受けつがれてきたのだろうか。						色々な国の、食べ物のせい法などが、日本の菓子に応用されていたのです。					和菓子は、どのようにしてその形を確立していったのか。まず、和菓子の歴史を見てみる。
和菓子は、和の文化を再発見できるみりよくがある。		和菓子は、和菓子作りの職人だけではなく、それを味わい楽しむ人に支えられることで、受けつがれている。			ひしもちや草もちには、わざわざを寄せ付けないようにという願いがこめられているといわれその他にも、いろいろな意味のこめられている和菓子がある。						江戸時代にさとうが多く使われ、外国から輸入されるものに加え、さとうの特性を生かした菓子の技術が進み、多くの菓子が作られるようになった。					明治以降になると、西洋から菓子などが輸入されて、それらを「洋菓子」、日本固有の菓子を「和菓子」とよぶようになった。
和菓子は、和の文化を再発見できるみりよくがある。		和菓子は、和菓子作りの職人だけではなく、それを味わい楽しむ人に支えられることで、受けつがれている。			次に、和菓子と他の文化との関わりを見てみましょう。						和菓子は年中行事と結び付き、人々の願いや思いがこめられている物がある。					古くから受けつがれてきた日本の伝統的な文化が沢山ある。和菓子とは、日本で食べられてきた菓子のこと。その中で、様々な文化と関わり発展し、現代に受けつがれてきた。

